

第1回城東学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成29年12月12日（火） 19:00 ～ 20:30
場 所	大東北公民館会議室
出 席	委 員 28人 事務局 教育長、教育部長、企画政策課長、学務課長、学校教育課長 学校教育課主任指導主事、教育政策室長、教育政策室係長 教育政策室主任、教育政策室指導主事
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員委嘱等</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 委員会規程について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 委員長、副委員長の指名</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 自己紹介、事務局紹介</p> <p>4 協議事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 掛川市が目指す小中一貫教育について</p> <p style="margin-left: 40px;">ア 掛川市の教育</p> <p style="margin-left: 40px;">イ 小中一貫教育が求められる背景</p> <p style="margin-left: 40px;">ウ 掛川市が目指す小中一貫教育</p> <p style="margin-left: 40px;">エ 全国の状況</p> <p style="margin-left: 40px;">オ これからに向けて</p> <p style="margin-left: 20px;">※事務局からパワーポイント、配布資料を使用して説明を行った。</p> <p>【委員】</p> <p style="margin-left: 20px;">・説明にあった小中一貫教育の成果や課題についての統計(グラフ)の回答者は誰か。</p> <p>【事務局】</p> <p style="margin-left: 20px;">・全国の小中一貫教育を進めている市町教育委員会が回答したものであり、その集計に際し、学校が回答している。</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 会の目的等について</p> <p style="margin-left: 40px;">※事務局から説明</p> <p>【委員長】</p> <p style="margin-left: 20px;">・これまでは、全国一律同じ教育をとということでやってきたが、これからは「地域の実情に応じて」というところがポイントになる。</p> <p>【委員】</p> <p style="margin-left: 20px;">・全国の状況を見ると小中一貫型の施設分離型が一番多いが、分離型の場合にはどのように一貫教育を行うのか。</p> <p>【事務局】</p> <p style="margin-left: 20px;">・中学校の教員が小学校へ行って専門的な指導を行う、小学生が中学校へ行って授業を受けるといったような方法を今後考えていく必要がある。どちらも、時間の制約、打合せ時間の発生など課題がある。</p> <p>【委員】</p> <p style="margin-left: 20px;">・今ここにいる保護者の大部分は、小中一貫教育とか城東学園とか聞いても意味が分からない人がほとんどだと思う。分かりやすく説明をしてほしい。</p>	

【事務局】

- ・学園、小中一貫教育について説明。

【委員長】

- ・学園という私立大学のキャンパスをイメージしていただけるとよい。附属の高校や幼稚園がキャンパスに併設されている。それが学園の一般的なイメージ。掛川市は、園、小中学校が離れてはいるけれども、中学校区の中でお互いに連携をして、学校行事を一緒に行ったり、教育活動を連携したりしている。

【委員】

- ・教職員の校内研修も学園内で合同で行うことで、単級の学校でも複数の学校と同じように、グループで研修を行うことができるようになった。

【委員】

- ・学園化構想の大きな目的の1つは、地域ぐるみで、学園全体で子どもを育てよう、ということが根底にある。

【委員長】

- ・中1ギャップを解消するために小中一貫教育は全国的に行われている。掛川市の場合には、そのベースに地域が関わっているというすごい特色がある。地域の方に学校の支援にたくさん入っていただいている。どんな子どもに育てていきたいか目標を地域の皆さんと一緒に決めていくというようなことが、かけがわの小中一貫教育、学園化の特色ではないかと思う。

【委員】

- ・地域の教育力を学校に取り込むことによって、先生と子どもの関係だけではないふくらみのある教育が実施できている。

【委員】

- ・少子化の問題と地域の問題は密接に関係している。今は、老人の数が多くて、小学校関係などの若い人の意見はなかなか通らない。少子化の問題をまずなんとかしないとイケない。地域を巻き込もうとしても、地域の人なかなか学校に来てくれない。自分くらいの年の独身の人がたくさんいる。
- ・学校では地域の皆さんに教えてもらいたいということであるが、地域の人を集めようと思っても集まらない。
- ・保護者の数が減ってしまい、学校では草刈りが追いつかない。少子化の問題を解決していかないと根本的な解決にはつながらないと思う。

【委員長】

- ・少子化は大きな問題である。このような社会問題を含めて、今後どうしていったらいいのかこの会で話し合っていきたい。皆さんにはいろいろな場で話題にさせていただくことも大切である。

【委員】

- ・校舎が古くなってきているので、この話は学校を統合するためのものだと思っていた。話を聞くとそうでもないようだが、統合という感覚が抜けない。

【事務局】

- ・子どもの数が減少している。掛川市全体では平成の初めの頃に比べると2割くらい減った。最近では下げ止まり、1学年1,000人くらいの状況が続いている。1学年が単学級の学校が非常に増えた。城東地区の3小学校はいずれも単学級である。固定した人間関係の中では学び、育ちに課題がある。教育委員会としては一気に統合することは考えていない。一貫教育の中でたくさんの友人、上級生、下級生と関わっていかないと子どもたちのコミュニケーション力や課題解決力が育たないのではないかと心配している。複数学級の学校で教育をした方がよいと報告書にも記載されているので、そういったことも視野に入れて考えていきたい。城東学園の子どもたちにとって、よい学校・学園とは何か考えて進めていただきたい。

【委員】

- ・中学に入って、小学校まで仲の良かった子と別のクラスになってしまい、不登校にな

ってしまった、という話を聞いた。中学に入った時に、他の小学校から来る子と馴染めるような教育をしてくれると親としては心強い。

【委員】

- ・子どもの社会性を単学級の中でどう育てていくかが課題となっている。多くの人と関わることが必要である。
- ・小規模校では、中規模、大規模校に比べると教職員の負担も大きい。大きな学校であれば手分けをしてできるが、小さな学校では1人の職員が2つも3つも分掌を持たなくてはならない。
- ・土方小の校舎は昭和39年建築で、市内で一番古い校舎になった。そろそろ新しい校舎を考えなくてはならないのかなということもある。

【委員長】

- ・オリンピックのマスコットの選定投票のニュースで中央小が取り上げられていた。インタビューに応じる子ども達の表情がとてもよかった。素直に自分を表現できていた。子どもたちが揉まれていたり、きれいな学校だからかなと思った。新しい学校ができたときに移り住みたいと思われるような、そんな学校を造っていきたい。

5 連絡事項

- (1) 第2回委員会の内容について
各学校での小中一貫教育の研究状況について説明をする予定。
日程は決定次第連絡する。
- (2) 地域意見交換会について
平成30年1月19日（金）午後7時から、会場は大東北公民館2階集会室。

6 閉会